

5 遺物

古墳時代、古代、中世（鎌倉時代）の遺物が出土しています。多くは古墳時代の土師器^{はじき}で、次いで中世の珠洲焼^{すまがやき}です。このほか古代の須恵器^{すゑき}、土師器が少量出土しています。

古墳時代 北西部の1E・2F区を中心に出土しています。土師器^{つぼ}壺^{かめ}、甕^{たかつき}、高杯^{たかつき}などです。古墳時代中期（5世紀）・後期（6世紀）のものです。

中世 近年までの畑耕作のため、攪乱が多く、遺物包含層からの出土はありません。井戸、掘立柱建物（倉庫）、堀から出土したものです。土器はすべて能登半島でつくられ運ばれてきた珠洲焼^{すまがやき}で、壺^{かめ}、甕^{かめ}、すり鉢^{すり}などです。いずれも鎌倉時代（13世紀）のものです。



古墳時代の土器（右上：壺、左上：甕、下：高杯）



鎌倉時代の土器：珠洲焼甕（121号建物出土）

6 まとめ

今回の調査で古墳時代と中世の遺構・遺物が発見されました。古墳時代は集落の縁辺部と考えられます。調査区の南200mには、5世紀後半～5世紀末の古墳が16基見つかった稲原大野遺跡があり、これに先行する遺跡として注目されます。

中世（鎌倉時代）は、掘立柱建物、倉庫、井戸、土坑と、これを大規模な堀で区画する村の姿が明らかになりました。

現在の岡木集落は近世初期（17世紀前半）に成立した村と考えられます。これ以前の歴史は明らかではありませんでしたが、13世紀（750年前）と5世紀（1,400年前）に村が営まれていたことが分かりました。



珠洲焼すり鉢（3号井戸出土）

* 近世岡木村の成立

慶長二年（1597）の『頸城郡絵図』には稲原村、駒林村は描かれていますが、岡木村は描かれていません。しかし、正保四年（1647）の越後国絵図には、いずれの村も描かれています。このことから、岡木村は江戸時代初期（17世紀前半）に成立したと考えられます。なお、延宝七年（1679）の郷高帳には214.5石、天和三年（1683）の検地帳には375.7石の石高が記され、三和区内では生産力の高い村の一つとなっています。